

平成19年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	成体脳神経幹細胞の活性化とニューロン新生：その制御機構の解明と可視化技術の開発	研究代表者名	岡野 栄之
-------	---	--------	-------

※該当箇所（ ）に○等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア  高い
- イ  やや高い
- ウ  やや低い
- エ  低い

意見：  
重要な研究課題であり、目標に向かった成果が出つつあるので、引き続き推進すべきである。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア  予定以上に進展している
- イ  概ね予定どおり進展している
- ウ  やや遅れている
- エ  遅れている

意見：  
インパクトのある成果を上げつつある。ただし、分散傾向にあることが懸念される。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか（ある場合に回答、複数回答可）

- ア  研究経費
- イ  設 備
- ウ  組 織
- エ  そ の 他

意見：

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか（又はあげつつあるか）

- ア  期待以上の成果をあげている
- イ  概ね期待された成果をあげている
- ウ  期待された成果をあげつつある
- エ  期待された成果はあがっていない

意見：  
Galectin の作用、Musashi の作用因子等について、基盤的成果が出始めている。今後の進展が期待される。

#### 4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア (○) 有機的に連携が保たれている
- イ ( ) あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ ( ) その他

意見：  
分子生物学とイメージング技術の連携を図るために適切なチームができています。

#### 5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア (○) 効率的・効果的に使用されている
- イ ( ) あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ ( ) その他

意見：  
研究代表者は他の研究資金によっても支援されていることを考慮すると、「成果の質」に関して、より高いコストパフォーマンスを達成・維持する必要がある。

#### 6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A+	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

##### 総合的な評価意見：

神経幹細胞制御の問題が多面的に研究されており、個々の課題について進展がみられる。目標が達成された時のインパクトは大きい。一方で、研究が分散傾向にあるので、できるだけ焦点を定め、少なくとも特定のテーマについて、より深く切り込んだ独創性の高い成果を期待したい。また、本研究課題は他のプロジェクトと並行して進められているが、本研究費による成果の説明に当たっては、他との区別をより明確にすべきである。